

入院診療計画書 地域連携パス 大腿骨近位部骨折

連携-7.11-1

様

当院は地域の医療機関と連携して大腿骨近位部骨折の診療を行っております。

年 月 日

手術	<ul style="list-style-type: none"> あなたの骨折は大腿骨 頸部 転子部 転子下 骨折です。人工骨頭置換術 骨接合術 を行ないます。 早期（48時間以内）に手術することが推奨されています。全身状態や入院時間によっては、翌日または数日待機する場合があります。 											
目標	<ul style="list-style-type: none"> 大腿骨近位部骨折による、運動器機能や全身状態の悪化を防止する。 合併症を予防し、早期に離床・リハビリを開始し、筋力の低下を防止する。 					退院基準 ・骨折手術後の急性期の病状が安定しており、数日間症状の悪化がみられない。						
						転院基準 ・手術創部の状態がよく、合併症（肺炎、心筋梗塞、深部静脈血栓症など）がなく、リハビリテーションを継続して必要である。						
日時	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	
経過	入院日（手術前）	手術後	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目～ 退院前日	14日目頃退院日	
食事	<ul style="list-style-type: none"> お腹の動きが確認できてから食事が再開となります。 飲み込みのテストを行うことがあり、結果によって誤嚥の危険性がある場合は、食事内容を検討します。 栄養士が食事内容の相談に伺うことがあります。 											
活動	・ベット上安静	・手術後、痛みや全身状態に応じて、早期から車いす、歩行器、杖での歩行練習と拡大していきます。 <div style="float: right; text-align: center;"> </div>										
排泄	・手術後、動いて良くなるまで尿の管が入っています。	・尿の管を抜きトイレに行くことが出来ますが、困難な場合には尿器やおむつを使用し、ベッド上での排泄となります。										
清潔	・入浴できません。	・全身状態や創部の状態がよければシャワー可となります。 <div style="float: right; text-align: center;"> </div>										
リハビリテーション		・理学療法士が足腰の状態や、座ったり立ったり出来るかなどを評価します。	・患者様の状態に応じて手足の運動や座る練習、立つ練習、歩く練習、生活動作などの練習などを行います。必要に応じて段階の練習等を行うこともあります。							・転院する患者様については必要な評価を行います。		
点滴・注射	・手術後の点滴や抗生物質の点滴があります。貧血がある場合には輸血をすることがあります。 ・食事や水分を十分にとれないときは、点滴で水分・栄養の補給をすることがあります。 <div style="float: right; text-align: center;"> </div>											
内服	・血栓症予防のための薬を2週間内服します。全身状態や他の内服薬の関係で内服しないこともあります。 ・疼痛に応じて痛み止めを使用します。 ・平地での転倒で大腿骨近位部骨折を受傷された場合、骨粗鬆症の診断となりますので治療を検討します。											
処置	・創部の中に溜まった血液を出す管を入れてくること があります。出血量に応じて1～2日で抜去します。											
	・創部の腫れを軽減する目的で腰・大腿用サポーター（プレバパンツ）を装着し、足を高くし創部をアイスノンで冷やします。								・創部を保護しているテープを除去します。腫れや出血が強くなければプレバパンツを外し、アイスノンを中止します。			
検査	血液検査 レントゲン 心電図	・必要に応じて血液検査を行います。								・股関節レントゲンと骨密度検査を7日目に行いません。		
指導・説明	・医師、看護師から入院について説明があります。	・医療費、介護保険、退院や転院、その他療養上の不安がある方は、ソーシャルワーカーが御相談に応じます。							・リハビリテーションの継続が必要な場合には専門の病院に転院となります。		<div style="text-align: center;"> </div> ・退院後の留意点や次回外来受診日について説明します。 ・薬剤師からお薬について説明があります。（服薬指導）	
備考	特別な栄養管理の必要性 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 ☆症状によっては、特別な栄養管理をする場合があります。 40歳以上の方は、別紙《総合機能評価表》を用いて総合的な機能評価を行う場合があります。											

*状態に応じて予定が変更となる場合があります。

主治医 _____ 印 _____

主治医署名 _____

※主治医の押印がある場合は不要

主治医以外の担当者

看護師	陶山 恵
薬剤師	橋本 光生
栄養士	中嶋 美緒